



京都産業大学 ことばの科学研究センター 2023 年度 第 4 回研究会

9 月 27 日 (水) 14:00~16:00

場所：4 号館 2 階総合学術研究所

中大兄と周公——漏刻造作の意味

池田 昌広 (外国語学部教授)

『日本書紀』斉明 6 年 (660) 5 月是月条に、中大兄皇子が漏刻 (水時計) を造作したという記事がある。本報告はその用途を問う。私見によれば、漏刻は飛鳥地中説の実証のため造られた。周公の故事を援用し、斉明朝を周初になぞらえ、太平の世の到来を演出する一環であった考えられる。

歌曲旋律の傳へる朝鮮語アクセントの一断面

——'例外'を通じた究明への試み——

杉山 豊 (ことばの科学研究センター員・外国語学部准教授)

朝鮮の傳統聲樂、'歌曲'の旋律は、歌詞 ('辭説') のアクセントを反映してをり、その實態は、15~16 世紀の朝鮮語文獻に記された——すなはち、現在傳へられる'歌曲'の出現以前の——ソウル方言のそれとよく一致する。その一方、無視できない數の'例外'を存することも、事實である。本発表では、これら例外への検討を通して、朝鮮語音韻史資料としての'歌曲'の位置づけを論ずる上での、手がかりのいくつかを紹介する。

